

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：2/18～/22

・2/18(月)

トランプ大統領とノーベル平和賞、不正統計問題、日韓関係、iPS 細胞の世界初の臨床研究が承認されるなどについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、不正統計問題については放送法上問題のある場面が見られました。また、トランプ大統領とノーベル平和賞については検証者の所感を記しました。

・2/19(火)

親の体罰禁止を厚労省が検討を始める、小中学校とスマホ、拉致問題、サンダース上院議員が大統領選に出馬表明などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、親の体罰禁止を厚労省が検討を始める、小中学校とスマホについては今後の報じ方に注意が必要と考えられるものでした。また、親の体罰禁止を厚労省が検討を始めるについては検証者の所感を記しました。

・2/20(水)

国会論戦、辺野古基地移設県民投票、東京都が虐待防止条例、日米首脳電話会談、イスラム国で結婚出産女性の英国籍はく奪、福島第一原発避難訴訟、辺野古署名発起人が来日などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、国会論戦では放送法上問題のある場面が見られました。また、辺野古基地移設県民投票については検証者の所感を記しました。

・2/21(木)

自民・田畑議員が離党、米朝首脳会談などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、特に問題は見られませんでした。

・2/22(金)

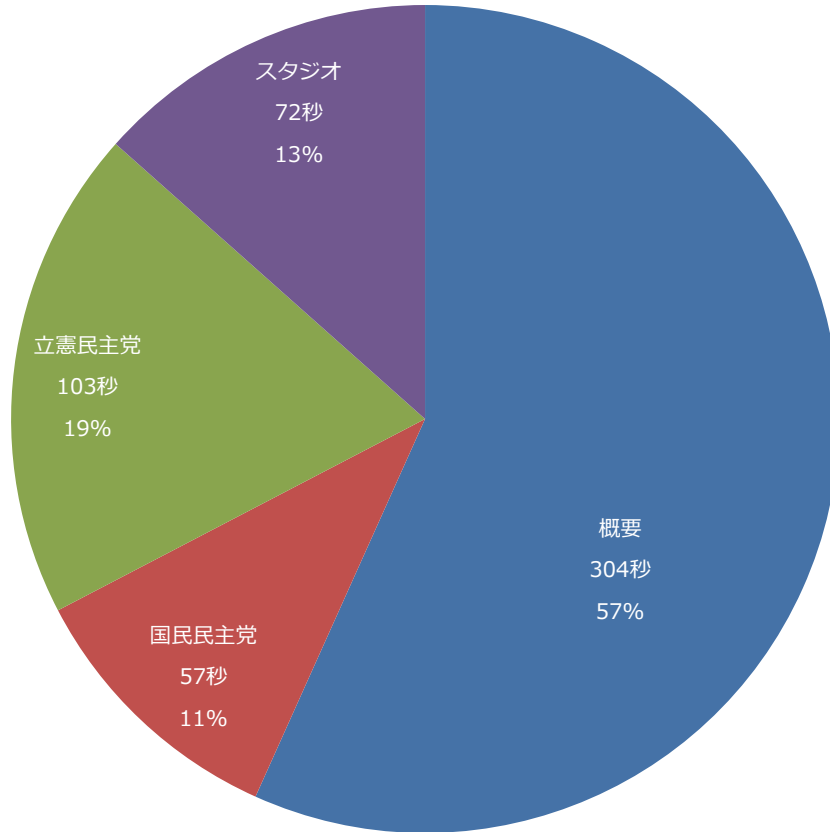
統計問題、辺野古埋め立ての県民投票迫る、松江市で竹島の日の記念式典、皇太子さまが 59 歳の誕生日、安倍総理が皇太子さまのもとへ情勢報告などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、統計問題および辺野古埋め立ての県民投票迫る、については放送法上問題のある場面が見られました。また、辺野古埋め立ての県民投票迫るについては印象操作の疑いのある場面も見られました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年2月18日
出演者：星浩、雨宮塔子、皆川玲奈、宇内梨沙		
※駒田キャスターは取材中		
検証テーマ：トランプ大統領とノーベル平和賞、不正統計問題、日韓関係		
iPS 細胞の世界初の臨床研究が承認される		
報道トピック一覧		
<ul style="list-style-type: none"> ・ トランプ大統領とノーベル平和賞 ・ 不正統計問題 ・ 進む共学化 ・ 高校での集団暴行の動画がネットで配信される ・ 日韓関係 ・ iPS 細胞の世界初の臨床研究が承認される ・ 鹿児島で四歳児の暴行の疑いで母親を逮捕 ・ 行方不明のタイ人女性が八ヶ月ぶりに中国で徒歩 ・ スポーツ報道 ・ 23Today <ul style="list-style-type: none"> トランプ大統領とノーベル平和賞 不正統計問題 無許可花火打ち上げで会社員男性を書類送検 愛媛県ご当地アイドル自殺訴訟 高級車に10円玉で傷 ・ 天気予報 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<ul style="list-style-type: none"> ・ トランプ大統領とノーベル平和賞：特に問題なし <p>トランプ大統領をノーベル平和賞に推薦したことが国会で取り上げられたことについて報じられた。このトピックについて当てられた時間は536秒で時間配分は以下の通りであった。</p>		



VTR では以下に朱記した様子が取り上げられた。

トランプ大統領「安倍首相は日本を代表して謹んであなたにノーベル平和賞を贈るよう推薦した、と伝えられた。」
 皆川玲奈「安倍総理にからノーベル平和賞に推薦された、と暴露したわけなんです、果たして真相はどうなん
 でしょうか、早速国会で追及されました。」

玉木雄一郎（国民民主党代表）「拉致も核も、そして近距離中距離も含めたミサイルの問題は何ら解決していません。もしこれでノーベル平和賞推薦したとすればですよ、総理の北朝鮮に対する認識は甘いと言わざるを得ません。」

"ナレ『野党の追求を受ける安倍総理、きっかけはこの発言でした。』

トランプ大統領「日本の安倍首相が私にもっとも美しい手紙のコピーをくれた。それは彼がノーベル平和賞の選考者に送った手紙のコピーだ。」 "

"ナレ『会見で突然、安倍総理からノーベル平和賞に推薦されると明かしたのです。』

トランプ大統領「彼はこう伝えてきた。日本を代表して謹んであなたにノーベル平和賞を贈るよう推薦した、と。私はありがとうと伝えたんだ。」 "

ナレ『しかし、総理は今日の国会で。』

"玉木雄一郎「トランプ大統領に対してノーベル平和賞を安倍総理が推薦したとの報道がありますが、これ、事実関係を教えてください。」

安倍総理「ノーベル平和賞については、ノーベル委員会は推薦者と被推薦者を 50 年間は明らかにしない、こと

としていることを踏まえまして、私からはこの方針に則ってコメントを差し控えたいと思います。」

玉木雄一郎「ではあの一部報道されていることは事実ではない、ということですか。」

安倍総理「事実ではないということを申し上げているのではありません、私からコメントすることは差し控えたい、と思います。」 "

ナレ「ノーベル賞のルールではノーベル委員会は推薦者や候補者の名前を 50 年後まで明らかにしてはいけない事になっています、ただ、推薦者自身が明らかにしてはいけないというルールはあるのでしょうか。」

"ナレ「憲法 9 条をノーベル平和賞に推薦する活動を行ってきた市民団体は。」

石垣義昭共同代表（『憲法 9 条にノーベル平和賞を』実行委員会）「ノーベル委員会の方から公表して困りますとかそういうことは言われたこともないし、安倍首相がそういうことを言ってるというのはちょっと理解じがたいですね。」 "

ナレ「NEWS23 がノルウェーのノーベル研究所に確認したところ推薦者が候補者を明かすことについて特に禁じてはいない、ということです。」

"長妻昭（立憲民主党共同代表）「総理どうなんですか、あの、推薦をされたんですか、されてないんですか、自分から仰るのは全く問題ないと思います。」

安倍総理「私はお答えをしないということにしております、これはあのノーベル委員会の基本方針に私は則ってですね対応するべきだと、こう考えているわけでございます。」 "

"ナレ「総理がトランプ大統領をノーベル平和賞に推薦したのならその理由は何だったのでしょうか。トランプ大統領が上げた理由は北朝鮮との関係改善です。」

トランプ大統領「日本の上空にはロケットやミサイルが飛び警報が鳴り響いていた。それが今、突如として日本人は安心できるようになった。私のおかげだ。」 "

"なれ「自分が日本に安心をもたらした、と成果をアピールしたトランプ氏。去年 4 月の集会でも。」

聴衆「ノーベル！ノーベル！ノーベル！ノーベル！」

トランプ大統領「とてもいいね。ありがとう。ノーベル賞。」

ナレ「しかし、現実には昨年の米朝首脳会談以降、北朝鮮の非核化は目に見える進展はありません。」 "

"長妻昭「日本人はみんな安心していませんか、もうミサイル飛んでこない、と。ミサイルまだ持っていますよ。日本射程距離の中に入っている、こういう間違っただメッセージを大統領であるトランプ大統領が発信されておられて否定するんならやっぱり否定しないと、どうですか。」

安倍総理「北朝鮮がですね、もう既に核について廃絶をするという方向で走っている、走っているのであればですね、第二回の米朝首脳会談なんて行く必要ないんですよ。一方ですね、まさに先程申し上げたようにトランプ大統領が米朝首脳会談を初めて歴史的に行った。お互いが話し合いを始めたということは評価をしているわけでございます。」 "

"ナレ「ただ、トランプ大統領と云えば、」

デモ「恥だ！恥だ！」

ナレ「温暖化対策のためのパリ協定からの離脱やイラン核合意からの離脱など、平和賞とは相容れない政策も相次ぎ打ち出してきました。」 "

"小川淳也（立憲民主党会話衆院議員）「米中との貿易戦争、自国第一主義、排外主義、壁の建設、どれ一つとっ

でもノーベル平和賞に推薦するなんてことはありえないし、日本国として恥ずかしいことだと思いますが、総理いかがですか。」

安倍総理「同盟国の大統領に対して口を極めて批判をされたわけですが、米国は日本にとって唯一の同盟国でありその国の大統領に対しては一定の敬意を払うべきであろう、と私はこのように思うわけですが。まあ御党も政権を奪取しようと考えているのであればですね。」

"ナレ「そのうえで、総理はトランプ大統領を推薦したのかについてはコメントは控えたいと繰り返しました。海外のメディアは突如飛び出した推薦話についてこう報じています。」

NBC ニュース「目が飛び出そうな瞬間だった。」

ワシントン・ポスト「聞いていた大勢の人が驚いた。」

ナレ「一方でこんな論調も。」

ル・ダン（スイス紙）「外交上の小細工に板挟みにされる日本の安倍首相」

"ナレ「日本を拠点にする外国人記者は総理の真鍮をこう慮りました。」

ジェシー・ジョンソン（ジャパントイムズ記者）「安倍総理は実利的に考えトランプ氏との強い関係を築こうとしたんだと思います。トランプ氏がそれを世界で中継される会見で自慢するとは思わなかったでしょう。」

VTR をうけてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されていた。

雨宮塔子「ノーベル平和賞に推薦したかどうかは安倍総理明言を避けましたが、結局推薦したんでしょうか。」

星浩「まあどうやら本当だと思いますね、まあ政府の関係者に聞いてみますとこういう経緯ですね、ホワイトハウスが去年の6月の米朝首脳会談のあとに日本の大使館を通じてですね官邸、総理官邸にその推薦を依頼した、と。総理官邸で検討した結果ですね、まあ出そうということでノーベル委員会に推薦状を出すとともにホワイトハウスにはその推薦状のコピーを提出した、というそういう経緯ですね。」

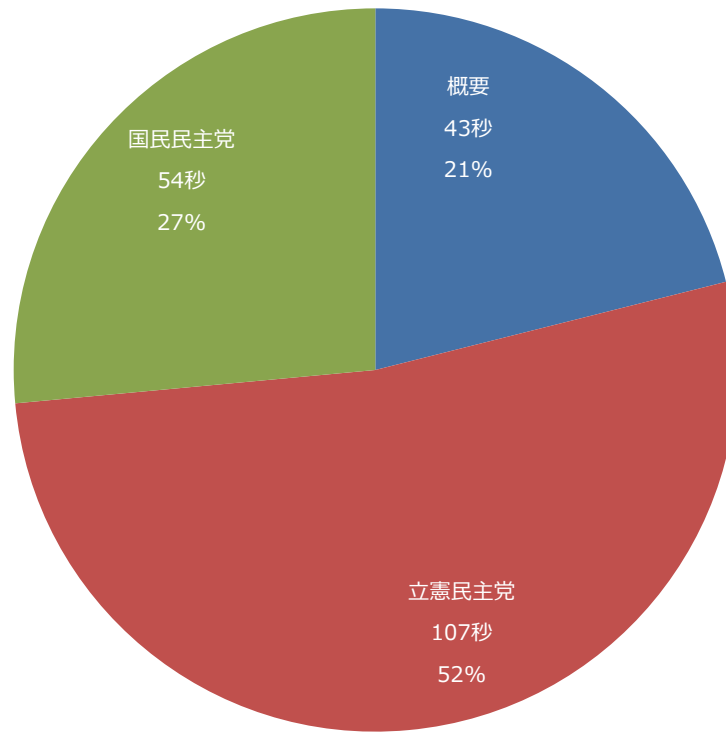
雨宮塔子「でも、トランプ大統領にノーベル平和賞って違和感がありますよね。」

星浩「そうですね、まあ世界的にもトランプさんが今外交をやっているのは国内事情によるものだろうってみんな思ってますからね、ただまあ日本は拉致問題を抱えていましてね、北朝鮮とは特に強いパイプもないという事情がある中ではトランプさんに頼るしかないということでしょう、ただですね、世界的に見るとこういう問題でそのトランプさんに追従していくということは日本はちゃんとした外交の基本政策、基本姿勢あるのかなど、言うことでちょっと色んな面で軽視される可能性がありますからね、外交的にはマイナスという気がしますね。」

放送法上は特に問題は見られなかった。

・不正統計問題：問題あり

国会で不正統計問題について取り上げられたことが報じられた。このトピックについて当てられた時間は204秒で時間配分は以下の通りであった。



"逢坂誠二（立憲民主党衆院議員）「まあ確かに総理にとって見れば 2009 年の政権交代ってのは悪夢、だったんだと思います。今の悪夢は何か、日本の国において公文書の廃棄や改ざんや隠蔽、日本の統計の何が本当のことなのか分からない、こんな状況になっている、これだって悪夢じゃないですか。」

安倍総理「あの、まず一点訂正させていただきたいと思います。私は 2009 年ですね、我等が野党に転落したときのことを言っているわけではないんです、悪夢はその後の民主党政権です。」 "

ナレ「厚労省の統計不正問題、まず野党が迫及したのは調査方法を変更するにあたって総理の意向が働いたのではないか、という点です。」

"玉木雄一郎（国民民主党代表）「まさにアベノミクスの成功を演出するための恣意的な統計の捜査を官邸主導でやったのではないかと思われますが総理いかがでしょうか。」

安倍総理「私からはですね、何ら指示をしていないわけでありまして、我々がですね、統計を弄ってですね、多く見せようと考えているというのはこれ全く違いますから。」 "

ナレ「安倍総理は自らの関与を改めて否定しました。もう一つの焦点は不正が起きた経緯です、今日のはじめて国会に呼ばれたのは統計部門の責任者だった酒光元政策統括官。厚労省の調査に対し不正を認識していた、と答えた人物です。」

"大串博志（立憲民主党会派衆院議員）「どういうきっかけ、経緯、タイミングで、あるいは理由でその報告はあったのでしょうか。」

酒光一章（元厚労省政策統括官）「個別の案件についていろいろと議論していく中でですね、たまたま議論が話し

になったというふうに記憶していますが、あの、問題があるんですよ、というのを言われたというふうに記憶してございます。」

ナレ「不正を認識したのはたまたまだった、という酒光氏、更にその時期については。」

大串博志「厳密にはいつだったのでしょうか。」

酒光「日付につきましては申し訳ないですが全くちょっと覚えておりません。」

ナレ「毎月勤労統計を巡っては一部で不正に抽出調査が行われていましたが、特に問題視されているのが、それを密かに去年1月から補正していたことです。」

「長妻昭（立憲民主党共同代表）「なぜ、30年以降だけ黙って補正をしてしまったのか、これ最大の謎なんです。いかがですか。」

酒光「標本抽出の話というのはこれたまたま聞いたわけですがけれども、なぜ1月から復元が行われるようになったかという経緯について、ちょっと私には全くわからないところでございます。」

ナレ「わからないを繰り返す当時の担当者、結局不正の詳細は明らかになりませんでした。」

厚労省の不正統計問題について、旧民主党の流れをくむ政党による質疑ばかりが取り上げられているが、そもそも不正な調査というものは小泉政権末期から民主党を中心とした政権を経て今に至るまで継続していたわけで、その民主党政権で要職を務めた議員を多く抱える立憲民主党や国民民主党とて決してクリーンハンドで追及できるアジェンダではないはずである。

立憲民主党と国民民主党とでは政党こそ違うものの、そうした意味ではこの問題で脛に傷を持つ身であるという点では似通っており、そうではない立場の政党、例えば日本維新の会や共産党の質疑についても取り上げなければ、この官公庁の不正や政治家が官庁の働きをマネジメントできるのかという問題を深掘りすることはできないのではないだろうか。

そういった点で、特定の立場の政党の質疑のみを取り上げるという報じ方は、放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」や同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。」に照らしても問題であると言える。

・日韓関係：結論→特に問題なし

天皇陛下が謝罪すれば慰安婦問題は解決するなど発言した、韓国のムン・ヒサン国会議長は15日に日本が求めている謝罪と撤回には応じない考えを示しましたことが報じられた。また、聯合ニュースによると、韓国メディアの取材に「謝るべき側が謝らず私に謝れとはどういうことなのか盗人猛々しい」と強く反発したということ、さらにムン議長は「この問題で日韓の対立が深まっているのは追い込まれた安倍総理の政略だ」と述べ安倍総理が国内で政治的に利用するために問題を争点化していると主張したとのことが伝えられた。

これに対して菅義偉官房長官は「同議長はその後、不適切な発言を繰り返しており、極めて遺憾であります。」と批判した上で、韓国に対し適切な対応を求めていく立場に変わりはないとして改めて謝罪と撤回を求めたとのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は67秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・iPS細胞の世界初の臨床研究が承認される：結論→特に問題なし

iPS 細胞を使って脊髄損傷の患者を治療する世界初の臨床研究が厚生労働省の専門部会で承認されたこと、。計画では京都大学 iPS 細胞研究所から提供を受けた iPS 細胞を神経のもとになる細胞に変化させ損傷後二週間から四週間が経過した患者四人に移植し運動機能の回復を目指すとのこと、この臨床研究を申請した慶応大学は今年の秋から冬にかけて患者の募集を始める方針で一年をかけて安全性や効果を確認するということが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 42 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・トランプ大統領とノーベル平和賞

国会では安倍総理がトランプ大統領をノーベル平和賞に推薦したのかどうか焦点になっているが、そもそもノーベル委員会が推薦者と被推薦者を 50 年間は明らかにしないとしていない以上、安倍総理やトランプ大統領が何を言ったところで、それを確かめる術などないのだから、そこを追及しても仕方がないように感じる。

また、安倍総理から何らかの答えを引き出せたとしても、この問題を熱心に追及する野党が安倍総理の自己申告をどの程度信用できるのかという問題も残るだろう。

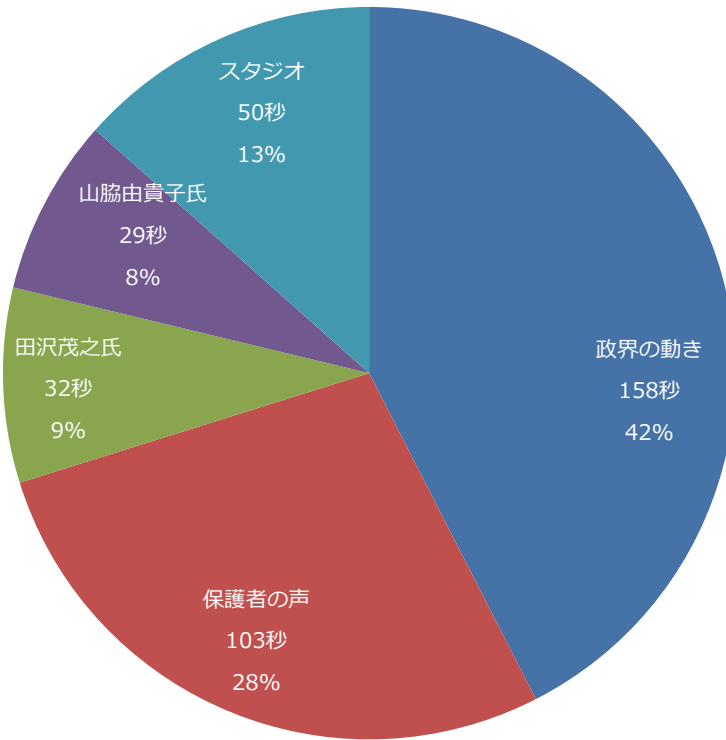
スタジオでは星キャスターが「そうですね、まあ世界的にもトランプさんが今外交をやっているのは国内事情によるものだろうってみんな思ってますからね、ただまあ日本は拉致問題を抱えていましてね、北朝鮮とは特に強いパイプもないという事情がある中ではトランプさんに頼るしかないということでしょう、ただですね、世界的に見るとこういう問題でそのトランプさんに追従していくということは日本はちゃんとした外交の基本政策、基本姿勢あるのかなと、言うことでちょっと色々な面で軽視される可能性がありますからね、外交的にはマイナスという気がしますね。」とコメントしていたが、米中の覇権争いや国際社会のパワーバランスの変動の中で、アメリカを中心とする国際秩序を支えながらその中で外交問題を解決していくという外交政策も、好みの問題は別にしても、十分に成り立ちうる話である。

星キャスターはそうした外交政策はお気に召さないのかもしれないが、米中の覇権争いの中で、アメリカを中心とした国際秩序を守り日本はアメリカの陣営に明確に立つ、というのを基本に据えるのであれば、アメリカの外交力を強める政策も選択肢には入ってくるはずであり、アメリカに追従的な手法を取ることがそのまま「外交の基本政策・基本姿勢がない」ということにはならないはずである。

もともと、ノーベル平和賞は核なき世界を謳いながらもその実、臨海前核実験を着実に進めていたオバマ前大統領や、非核三原則を掲げる一方で核密約を結んでいた佐藤栄作元首相も受賞したような代物であるから、トランプ大統領が受賞したからと言ってそれで今更有り難みがなくなるようなものでもなければ、トランプ大統領がノーベル平和賞にふさわしくないと切り切れるようなものでもないように思える。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年2月19日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
<p>検証テーマ：親の体罰禁止を厚労省が検討を始める、小中学校とスマホ、拉致問題 サンダース上院議員が大統領選に出馬表明</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の体罰禁止を厚労省が検討を始める ・大津地裁が中2男子自殺事件でいじめを行った元同級生二人に賠償命令 ・ホンダがイギリスでの車生産終了を発表 ・堀ちえみさんが舌癌を公表 ・小中学校とスマホ ・講談社元編集次長が公判で妻殺害を否認 ・離婚訴訟で最高裁が不倫相手への請求を認めない判断 ・拉致問題 ・はしか感染者が今年167人に ・スポーツ報道 ・23Today <p>親の体罰禁止を厚労省が検討を始める 大津地裁が中2男子自殺事件でいじめを行った元同級生二人に賠償命令 元宝塚トップスターの母親が脱税で告発される サンダース上院議員が大統領選に出馬表明 上田城復元を目的に市民一人から10億円の寄付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の体罰禁止を厚労省が検討を始める：結論→特に問題ないが今後の報道に注視が必要 <p>千葉県野田市で小学四年生の女の子が死亡し両親が逮捕された事件を受け政府は親による体罰禁止の法制化などについて検討をはじめたとのこと、超党派の議員連盟も法制化に向けて動いていることについて取り上げられていた。</p> <p>このトピックについて当てられた時間は372秒で、政界の動き、保護者の声、子どもすこやかサポートネット代表理事の田沢茂之氏の見解、家族問題カウンセラーの山脇由貴子氏の見解、スタジオでの議論のシーンに大別されそれぞれのシーンの時間配分は以下の通りであった。</p>		



なお、VTR では以下に朱記したように取り上げられていた。

"ナレ「親子が集うカフェで子供の躰について聞きました。」

3 児の母親 A 「マナーに対しては厳しく言うことは多々あります。」

3 児の母親 B 「まあ、男の子同士なので結構なんだろう、汚い言葉を使ったりするんですけど、バカとか使ったときは、そういう言葉使わないとか言ったりしてますんで。」

ナレ「しつけに悩む親たち、」 "

"ナレ「千葉県野田市などでのしつけを理由にした虐待事件を承けて根本厚生労働大臣が発言したのは。」

根本匠厚労相「与党において児童への体罰家因子を法律上規定するべきという議論もありますので、法務省ともよく協議をしながら検討していきたいと思います。」 "

"ナレ「今国会で提出予定の児童虐待防止法の改正案に体罰禁止を盛り込むかどうか検討を進める考えを示しました。与野党からも体罰禁止に向けた動きが。」

ナレ「超党派の議員連盟は夕方、体罰を禁止するため、可及的速やかに検討を始め、早急に結論をだすことを求める決議書を山下法務大臣に手渡しました、さらに議員らが山下法務大臣に求めたのは民法に規定されている懲戒権の見直しです。懲戒権とは親に認められている子供を戒める権利。2011 年には虐待を正当化されないように、子供の利益になる場合に限って認める、との改正が行われています。しかし、超党派の議員連盟の会合ではしつけのためであれば体罰も許されるという誤解を招きかねないとして規定の削除を求める声が相次いでいました。」

"

ナレ「山下大臣も午前中の会見で懲戒権の見直しについて担当部局に検討するよう指示したことを明らかにしています。」

ナレ「体罰については 54 カ国が過程を含む場所での体罰を法律で禁止しています、一方で日本では六割の親が体罰を容認しているという意識調査もあります。」

"一児の母「やんちゃしてて多少頭を破袋するくらいに見えるのをパット見てあの家体罰っていうかなんか暴力振るっているなっていうのは個人的な感覚としては思わない。」

一児の父親「自分が今まで親から受けてきていた叱られ方というか、そういうのをやるんだらうなという気はして、たまに家の外に追い出されたり s で、そこで一人でないた記憶はありますけれども。」 "

"ナレ「法律での体罰禁止を求める団体は、」

田沢茂之（子どもすこやかサポートネット代表理事）「やはりあの法律ですので、当然にその、それが社会の中で、行けないんですという風になればひとりひとりの意識は変わっていきますし、行政の対応っていうのも変わってくる、しつけ自体が行けないということではない、ちゃんとやっぱりしつけを、あるいはその規律、教育をちゃんとすべき。」 "

"ナレ「一方、およそ 20 年間児童相談所に努めていた元職員は。」

山脇由貴子氏（家族問題カウンセラー）「いくら権限があるといっても、法律があるよと言っても、それは言うことを聞かない親はたくさんいます。法律持ち出されるとわからない親は弁護士を連れてきますから、親と直接の話し合いがどんどんできなくなるという可能性の方が高いかなという気がしますがね、親には絶対に負けない、権限があるんだという後ろ盾があるとちゃんと認識するとか。」 "

"ナレ「しつけを巡ってはこんな意見もありました。」

3 児の母親「しつけの度が過ぎてそういった虐待になるっていうのであれば、親が感情的に怒らなくても済むように親のストレスもなくすとか、そういったところなんじゃないかなと思いますね。」 "

また、VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられていた。

雨宮塔子「親も完璧ではないですから、時には感情的になることがあると思うんですね、ただ一方でしつけ、体罰もしつけの一環だという考える向きも未だにあるわけで、まあそういう意味では法律で体罰を禁止しなくちゃいけないほどもう待たなしの状態になっているということなんですかね。」

星浩「まあね、そのこう状況ですとね、親子であっても体罰はだめ、ということはもう法律で定める状況になっているんじゃないかなと私は思いますね。まあもちろん一方でやっぱりしつけも大事なんだと、多少の体罰は容認されるんだという意見もあるかもしれませんが、この際いろんな議論をしてみるといいんです、ただですね、いちばん大事なのは子どもをどうやって守るかというのが最優先だということを考えながら議論をして、法律作ったり体制を整備してもらいたいと思いますね。」

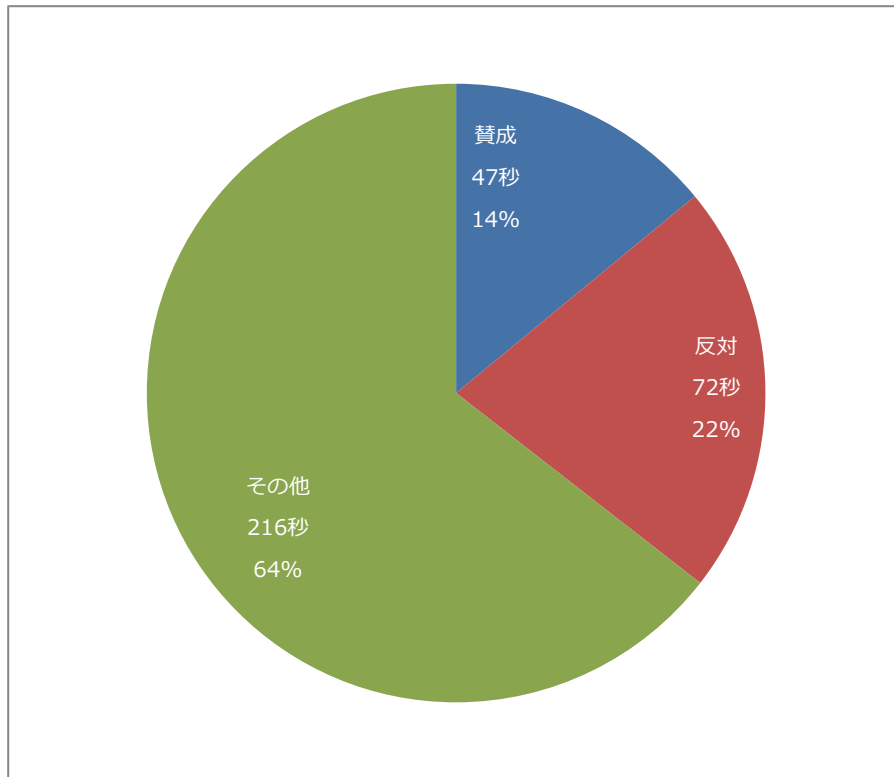
今回の報道では放送法上は特に問題は見られなかった。

虐待をなくすということには異論はないものの、これを実現するための法制化となると、どういった法制が考えられるのか、その法制は実効性があるのかななどでは、様々な意見が出てくると考えられ、こうした個別各論の議論がどう取り上げられ報じられるのかは今後、注視が必要であると考えられる。

・小中学校とスマホ：結論→特に問題はないが今後の報じ方に注視が必要

昨日、大阪府は新年度から府内の公立の小中学校で児童や生徒のスマホなどの持ち込みを認めると発表しましたこと、大阪での取り組みを承けてこれまで小中学校への持ち込みを原則禁止とすべきと通知していた文部科学省も今日、持ち込みを認める方向で検討を進める考えを明らかにしたとことが伝えられたこと、スマホ持ち込みの是非について取り上げられていた。

このトピックについて当てられた時間は 335 秒で、明確な賛成意見を取り上げたシーン、明確な反対意見を取り上げたシーン、それ以外のシーンに大別され時間配分は以下の通りであった。



VTR では以下に朱記した様子が取り上げられた。

"ナレ「今日、都内で開かれた子供とネットについて考えるイベント。中高生が参加し、話題となったのはやはりスマホの使い方についてでした。」

中学生 A 「1 時間以内にはしたいなって思うんですけども、あの 2 時間 3 時間になっちゃうこともあります。」

中学生 B 「親がいるときに見るようにはしています、一人で見ると自省が効かなくなっちゃう。」 "

"ナレ「若者とネットの世界をつながるスマホ」

記者「ネットを見る？何で見ます？」

中学生「スマホ」

中学生「スマホです。10 時間とかは使っちゃう。」 "

ナレ「今やスマホや携帯電話の所有率は中学生で七割近く、小学生でも半数以上に上っています、そんなスマホに関するルールが変わるかもしれません。」

ナレ「昨日、大阪府は新年度から府内の公立の小中学校で児童や生徒のスマホなどの持ち込みを認めると発表しました。きっかけとなったのは、去年 6 月大阪府北部を震源とする地震です、地震登校時間帯に発生した為安全

確認のため子どもたちに携帯電話をもたせたいという声が上がってきました。」

"ナレ「大阪での取り組みを承けてこれまで小中学校への持ち込みを原則禁止とすべきと通知していた文部科学省も。」

柴山昌彦文科相「この大阪府の動向を注視しつつ見直しに係る検討を進めてまいりたいと思います。」

ナレ「今日、持ち込みを認める方向で検討を進める考えを明らかにしました。」 "

ナレ「スマホなどの学校への持ち込みはありか、なしか、街の声は。」

"中2女子・小5男子の親「反対ですね。学校に持って行って使っちゃったら、なんかそればかりやって、お友達との遊びとかなんか勉強に支障が出たりとかしそうですね。」

小3男子の親「SNSとかを使えるような携帯を使ったりとか、親がちょっと把握しきれなかったりとか。」 "

"小6女子の親「賛成ですね。理由はやっぱり災害のときとか登下校の、なにか子どもと連絡を取る手段というのが無いよりはあったほうが親としては安心なので。」

小2女子の親「子供同士の付き合いで多分必要になるだろうから、そこでないのは多分仲間はずれにされるんじゃないかな。」 "

ナレ「大阪府が出した持ち込みに関する素案ではスマホなどの取扱について構内では鞆にしまうなどの緊急時以外使わないというルールが設けられています。」

"ナレ「しかし専門家はこのままでは現場が混乱すると懸念を示しています。」

藤川大祐（千葉大教育学部教授）「子どもが自分で管理するということまで決めてしまっているために、そのうえでじゃあ紛失と盗難とか破壊とか、そういう問題起きたらどうするのかっていうことが詰められていない。」

ナレ「さらに持ち込みが認められることでスマホなどを巡るいじめを招きかねないと言います。」

藤川教授「今までスマートフォンやタブレットなどを持ち込んでいる学校では子供の端末がいたずらされたり隠されたり盗まれたり壊されたり、そういった被害が起きていてそれがいじめになっている、端末をいじるタイプのいじめというものが助長される恐れがあるのではないか、ということ懸念しております。」 "

ナレ「対象となる生徒はどう考えているのでしょうか」

中学生「持ち込み、ナシのほうがいいんじゃないですか、持ち込んだら絶対いじるから。」

"ナレ「その一方ですでにスマホなどの持ち込みが許されている学校の生徒からはこうした意見も聞かれました。」

中学生「雪があって止まっちゃったとき電車とかが交通機関がそういう場合ってなんかやっぱり連絡取れないと危ないかなって感じです。」

中学生「特にいじめとかに発展するって感じはしない。大人が思っている以上にそんな別に大丈夫だなって感じがします。」 "

ナレ「生徒の中でも賛否が分かれるスマホなどの持ち込み、皆さんはどう思いますか。」

VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されていた。

"雨宮塔子「私実際個人的にですね、子供の緊急時もありましたし登下校で不安なこともあって持っててよかったな、持たせてよかったなと思うことがあって、持たせることに対して反対じゃないんですね、ただ学校についてからロッカーに預けるなりしてルールを設けることはもう絶対必要です。」

星浩「そうですね、これだけね、普及していますからね、子どもに持ってもらうのもう自然な流れかなっていう気がしますが、環境整備をしないといけないですね。持ってる子と持っていない子のスマホ格差が出てくる可能

性がありますし、いろいろ悪用される可能性がありますから、そういうのをどういうふうにして防いでいって知恵を絞るの、これ大人の仕事、ですよ。」 "

放送法上は特に問題は見られなかった。

スタジオではルールを設けることが必要という意見であったが、どういったルールにするのかであるとか、ルールも学校選択制のもとで各学校が独自に定めるのか、一律なものを定めるのかなどでは議論が分かれるだろう。こうした論点をどう取り上げるのかは今後も注視が必要と考える。

・拉致問題：結論→特に問題なし

来週の米朝首脳会談を前に拉致被害者家族会が安倍総理と面会したこと、トランプ大統領と明日電話会談を行う予定の安倍総理が「どのようにこの問題を解決をしていくか、という考え方について電話首脳会談の際にトランプ大統領に伝え、私の考え方を金正恩委員長に伝えてもらいたいと考えております。」と拉致問題解決に向けた意気込みを改めて話したとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・サンダース上院議員が大統領選に出馬表明：結論→特に問題なし

来年のアメリカ大統領選挙にバーニー・サンダース上院議員が民主党から出馬すると表明したこと、サンダース氏は民主社会主義者を自称する左派で前回の大統領選挙では民主党の候補使命を最後まで闘っていて今回も有力な候補となりそうであるとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

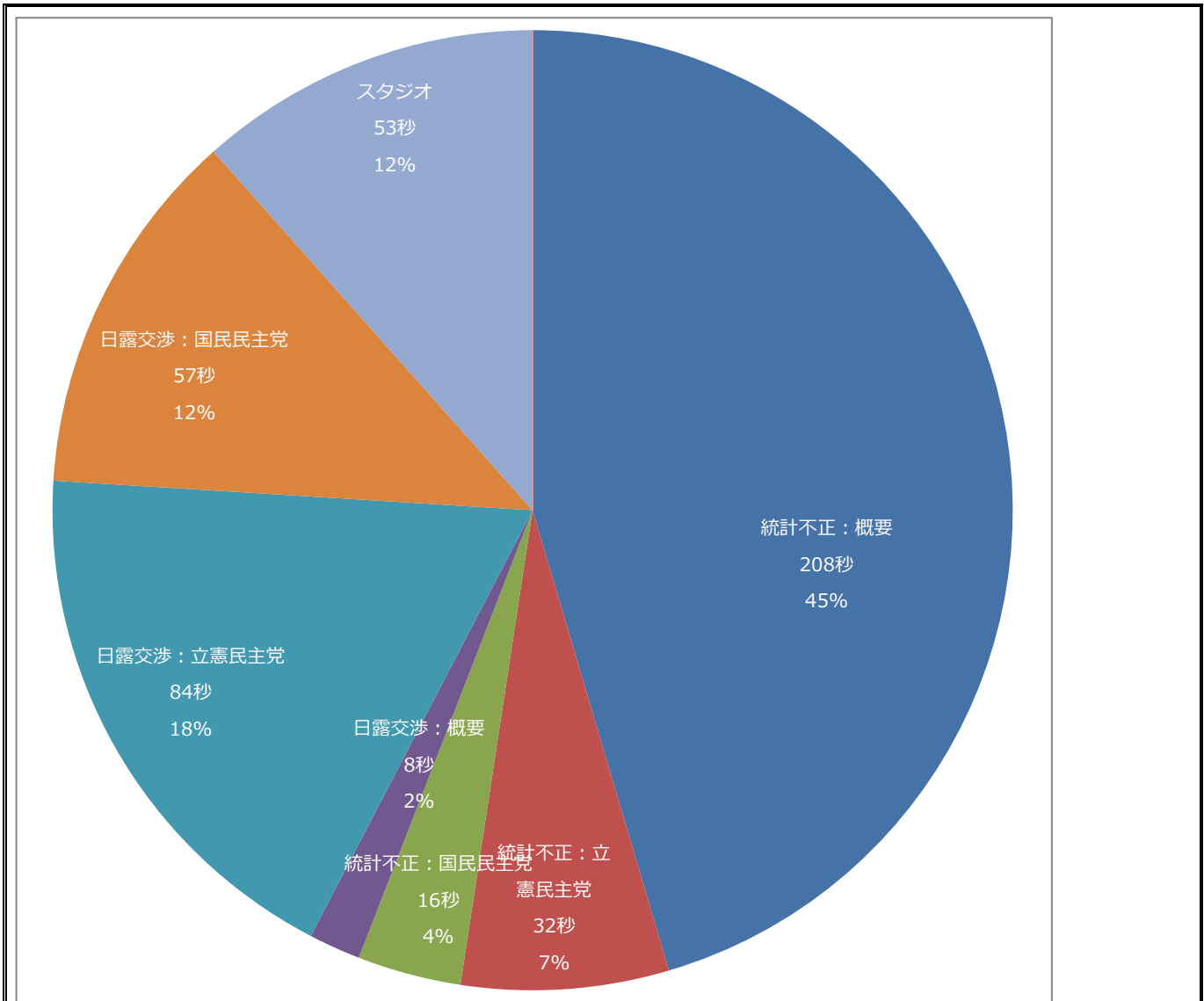
検証者所感

・親の体罰禁止を厚労省が検討を始める

星キャスターが「まあね、そのこう状況ですとね、親子であっても体罰はだめ、ということはもう法律で定める状況になってるんじゃないかなと私は思いますね。まあもちろん一方でやっぱりしつけも大事なんだと、多少の体罰は容認されるんだという意見もあるかもしれませんが、この際いろんな議論をしてみるといいんです、ただですね、いちばん大事なのは子どもをどうやって守るかというのが最優先だということを考えながら議論をして、法律作ったり体制を整備してもらいたいと思いますね。」とスタジオで語っていた。「この際いろんな議論をしてみるといい」というのであれば、その議論の末にどういった結論に至ったとしても、それを受け入れる覚悟は必要であろう。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年2月20日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
<p>検証テーマ：国会論戦、辺野古基地移設県民投票、東京都が虐待防止条例、日米首脳電話会談 イスラム国で結婚出産女性の英国籍はく奪、福島第一原発避難訴訟、辺野古署名発起人が来日</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会論戦 ・名古屋立てこもり放火事件の内部映像を入手 ・辺野古基地移設県民投票 ・東京都が虐待防止条例 ・日米首脳電話会談 ・イスラム国で結婚出産女性の英国籍はく奪 ・福島第一原発避難訴訟 ・スポーツ情報 ・辺野古署名発起人が来日 ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会論戦：結論→問題あり <p>勤労統計問題と日露交渉について国会論戦で取り上げられていたことが報じられた。このトピックについて当てられた時間は458秒で下記のような時間配分がされていた。</p>		



勤労統計問題については以下に朱記した様子が取り上げられた。

長妻（立憲民主党元厚労相）「何か変なメールが出てまいりました。」

ナレ「立憲民主党の長妻元厚労大臣が取り上げたのは厚労省の担当職員が送った1通のメールです。賃金の動向を調べる毎月勤労統計。この調査方法を変更すべきかどうか、厚労省では検討委員会を立ち上げ、議論を行っていました。2015年8月、検討委員会は調査方法を変えないことが適当だという結論でまとまりつつありました。しかし、9月16日。一転、引き続き検討することとなりました。なぜ結論は変わったのでしょうか。今回問題となったメールが送られたのは結論が出る2日前。送り先は検討委員会の阿部正浩座長です。その内容とは…」

根本厚労相「厚労省の担当者から委員以外の関係者から部分入れ替え方式を検討すべきではないか。との意見があったと連絡を受け安倍座長に連絡をいたしました。」

ナレ「委員以外の関係者から変更を検討すべきではないかと意見があったと言うのです。」

長妻「委員以外の関係者とは誰ですか。」

根本「中江総理秘書官のことだと思われるという担当部長からそういう話を聞いています。」

ナレ「中江総理秘書官とは、この年の3月31日これまでの調査方法である総入れ替え方式について、厚労省側に直接、問題意識を伝えた人物です。総入れ替え方式は賃金の伸び率がマイナスに転じることがあります。中江氏から問題意識を伝えられた厚労省は検討委員会で議論を開始することになるのです。阿部氏は、関係者は総理秘書官ではなく統計の専門家だと思ったと述べていますが、このメールの内容も勘案して引き続き検討するという結論をまとめたと話しています。」

阿部部長「当時はエコノミストから賃金の伸びなどがこれまでよりも注目が集まっていたのは事実です。厚労省がプレッシャーを感じている。混乱しているということは感じていました。」

ナレ「また、メールを送ったのと同じ9月14日。厚労省の担当者が検討委員会での議論の状況について中江氏に報告していることも明らかになりました。しかし…」

中江元哉（前総理秘書官）「私はそのような記憶全くございません。」

後藤祐一（国民民主党衆院議員）「本当に記憶がないんですかね？どこかで見た風景ですね。（加計学園問題の）柳瀬秘書官と同じじゃないですか。」

奥野総一郎（国民民主党衆院議員）「この件について一切総理に報告したことがないと言い切れますか？」

中江「私は問題意識を持つようなことでしたけれどもこの件については総理にはご説明しておりません。」

ナレ「しかし、野党はメールが送られる直前の9月3日に安倍総理が毎月勤労統計について中江氏と勉強会を行っていることに注目。安倍総理の意向が働いたのではと追及しました。」

長妻「総理は何か感想というか何か発言された記憶はございますか？」

安倍「そこで政策的なやり取りをするという普通余裕はないんですよ。」

日露交渉については以下に朱記した様子を取り上げられた。

ナレ「一方、ロシアとの交渉姿勢を巡っては安倍総理が厳しい追及にさらされました。」

江田憲司（立憲民主党会派）「安倍総理とプーチン大統領は25回も会談している。日本での会談はたったの1回。ロシアまで行ったのは10回。首脳外交は相互訪問が原則。こんなことをやっているだけで交渉のテーブルに着く前に負け。」

安倍「ロシアの場合はそれだと交渉は進まない。（従来の交渉で）結果出てない。帰ってきているわけじゃない。帰ってきて平和条約を結んで領土問題を解決して初めて結果が出たと言える。大切なことは結果を出すということ。」

ナレ「安倍総理は大切なのは結果を出すことだと反論しますが…」

江田「結果出てないじゃないですか安倍政権で今の状況は悪化しているじゃないですか。4島帰ってくるんですか。2島のみ返還にかじを切ったと思う。しかしそれすら危ぶまれているのが現状じゃないですか。」

安倍「4島における共同経済活動の実現に向けた取り組みを進めています。こういう新しいアプローチを進めていきたい。」

ナレ「北方四島のうち二島で妥協するのかという追及には正面から答えない安倍総理。」

前原誠司（国民民主党元外相）「日ソ中立条約をソ連が破棄し北方領土を不法占拠というのが日本の立場だが、まさかこの点を180度ひっくりかえして日ソ共同宣言に基づき2島を返還してくださいこんな無様なことはないでしょうね。いやいや、総理に聞いてる。総理元気がなくなってる。」

安倍「私どもの認識、あるいは法的な立場は一貫して変わらない。あの、やはり・・・静かな状況で交渉できるかどうかには上手く交渉を進められるかがかかっている。」

VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやりとりが取り上げられた。

雨宮「ちょっと戻って毎月勤労統計の調査方法について、検討すべきではないかと意見した関係者というのが当時の中江元秘書官だったことを根本大臣は認めましたね。」

星「真相解明に向けて一歩前進だと思いますね。中江秘書官の意見が検討委員会の座長に伝えられたのは9月14日、時系列的に見るとね。その直前の9月3日に総理と中江さん、実はもうちょっと多いメンバー、数人のメンバーで勉強会をしているんです。そこで統計の見直しなども出ていますので、この話と、その後の動きがどう関連してくるかが真相解明のポイントになってきたということですね。統計のやり方を見直していくというのは、それ自体は必要なことなんです、やるときは透明なやり方でやるのが一番大事なことだと思いますね。」

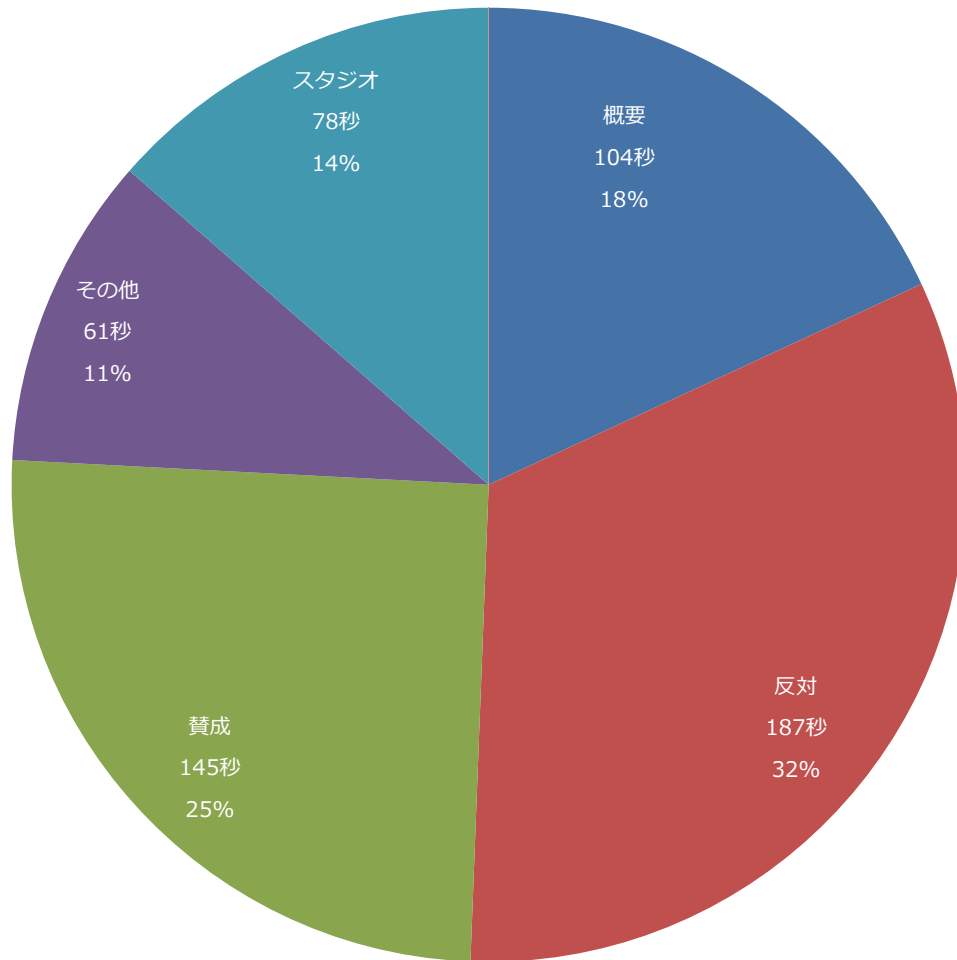
中江秘書官の関与について取り上げられていたが、この秘書官がどこの官庁出身で現在ほどの官職についているのかということについては触れられていなかった。これは加計学園問題の際に柳瀬元秘書官が経済産業審議官を現在は務めているということや、内閣府の藤原豊審議官が経産省からの出向者であり本籍地は経産省であるとのことに触れられていたのとは、取り上げ方が異なり、アンフェアであると言える。

真相解明が重要であるならば、やはり秘書官がどこの省庁に本籍地を持っているのかという情報も開示すべきであり、経産省からの出向者については本籍地も報じ、財務省からの出向者についてはそうした情報を報じないというのは放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」や同三号「報道は事実をまげないですること」に照らして不十分であると言える。

また、この統計不正の問題についてこれまでの報道でも、日本維新の会の議員による質疑がほとんど取り上げられていないが、これも放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」や同四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点から問題があるといえる。

・辺野古基地移設県民投票：結論→特に問題なし

沖縄の県民投票について取り上げられた。このトピックについて当てられた時間は575秒で下記のような時間配分がされていた。



沖縄県民の様子については以下に朱記したように VTR で取り上げられていた。

ミュージシャン「うちなー(沖縄)うちなーわったー (私が) 生まれ島。青い瞳白い肌(基地の)金網の向こうはアメリカ。」

ナレ「県民投票を1週間後に控えた日曜日。那覇市では投票を呼びかける音楽祭が開かれていました。」

ミュージシャン「行かないで後から文句言うよりしっかり投票に行きましょう。」

ナレ「普天間基地の代替施設として名護市辺野古の埋め立てに賛成、反対、どちらでもないの3択で投票は行われます。」

駒田「今、こちらでは高校生や大学生たちがそもそも県民投票とは何なのかを聞く会が開かれています。」

ナレ「投票権を持たない若者たちも辺野古について学んでいます。」

元山仁士郎(辺野古県民投票の会代表)「県民投票を通じていろんな人から話を聞きたいなど。自分が正しかっていうのもわからないから。」

参加者「どのくらい危険性が無くなるのかっていうのと、いいことっていうのは逆にあるのかなということが疑問に思った。」

ナレ「参加した高校生たちの思いも様々です。」

高校1年生「危ないから移設するのがいいって政府が訴えかけてくるじゃないですか。それ自体がおかしいなと思っていて、危ないと思うなら夜間飛行をやめるとか、もっとやることがあると思うんですよ。」

高校2年生「沖縄だけに基地を置いていいのか普天間から辺野古に移設するのではなくて沖縄から他についていう考えもあるのに沖縄だけでやるっていうのは違うんじゃないかなと。」

駒田「土砂投入開始からおよそ2カ月がたちましたけれども、今日も埋め立ての作業が行われています。以前より進んでいるようにみえます。」

ナレ「キャンプシュワブ内の海岸では…県民はどのような思いで投票に臨もうしているのでしょうか。名護市辺野古で日用雑貨店を営む許田正儀さん69歳。20年にわたって営業を続けてきました。売り上げの半分はアメリカ兵によるものだと言います。」

許田正儀（基地建設条件付き容認）「ビリヤードするには1時間当たり500円5ドル。」

ナレ「もともと辺野古は、隣接するキャンプシュワブによる経済効果で賑わってきた歴史があります。許田さんは、商工会の会長として基地建設に条件付き容認の立場です。」

許田：基地には非常に感謝している。彼ら(米兵)なくしては営業できない。

ナレ「しかし、あくまで容認であって基地が来ることを望んでいるわけではないと言います。」

許田「あれだけ知事が頑張っても阻止できない。我々が反対しても基地の移設は止まりますかと聞きたい逆に。止まらないのであれば条件付きで受け入れよう」と

ナレ「許田さんは基地建設を止められない以上見返りとして、政府に補償を求めるしかないと言います。理想より現実を選ばざるを得ない現状。許田さんは苦しい胸の内を明かします。」

駒田「仮に県民投票に法的拘束力があつたらどこに投票しますか？」

許田「反対に投票しますよ。だれも望まないものを地域が望むわけがない。苦渋の選択ですよ。これしか選択肢がない。そういうところまで追い込まれている地域の人。」

ナレ「一方、基地建設に反対の立場から県民投票に臨む人もいます。4歳の子どもを育てている与那城千恵美さん。与那城さんは普天間基地のある宜野湾市で生まれ育ちましたが、これまで危険性を感じたことはなかったと言います。」

与那城千恵美（基地建設反対）基地が生まれた時からあるので当たり前という感覚。

ナレ「それが、ある事件をきっかけに大きく考えが変わったと言います。」

与那城「ここの1歳児が暮らす屋根の上です。」

駒田「この建物の屋根の上？」

ナレ「おとし12月、子どもが通う保育園にアメリカ軍ヘリの付属部品が落下。ケガ人はなかったものの、当時、園内には60人の園児がいました。」

与那城「頭が真っ白になって体が震えて涙が止まらなくなって」

ナレ「保育園のすぐ隣の公民館の監視カメラには部品落下と同じ時刻に真上を飛ぶヘリがとらえられていました。しかしアメリカ軍が落下物がアメリカ軍のものであることを認めながら落としたこと自体は否定し続けていま

す。誰よりも普天間基地の危険を知っている与那城さん。しかし、だからといって辺野古に基地をつくることには賛同できないと言います。」

与那城「私は今回の事故を受けてとても怖い思いをした。子供たちも私たちも。なのでこういう怖い思いを絶対誰にもさせたくないと思っている。だから辺野古の子供たちが危険な目に遭うことは考えられない。」

駒田「早く普天間から基地は無くなってほしいけれども辺野古に移設することも反対？」

与那城「ありえないです。」

駒田「どういった思いを1票に込めたい。」

与那城「私たちはただ親として子供たちに安心安全な空と海を引き渡したい。それだけなのでその思いを込めて1票を投じたい。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返り広げられていた。

駒田「今の VTR の最後に出てきた与那城さんに、法的拘束力がないのになぜ県民投票をやるんでしょうか、やる意味ってあるんでしょうかと聞いたところ、そうであっても、そこまでしなければ沖縄の声、そして状況は伝わらないんだと話していましたね。私は思ったんですが、この県民投票を通して政府に対してだけではなく県外に住む、本土に住む国民に対して、もはや助けを求めているような思いに駆られました。それから複雑な気持ちを話してくれた辺野古に住む許田さんですが、あきらめに似た思いを持ちながらも投票には行くというふうに話していました。そして投票率が県民の意思を示すすべてだと思うと話していて、40%ぐらいでは総意とはいえないだろうと話していました。」

星「最近、政府はどんな結果が出てても工事は進めるという態度を崩していないんですね。県民投票せざるを得ない沖縄の苦悩に本当に向き合っているのかなという気がしますよね。だからそういう姿勢が沖縄との溝をどんどん広げているんだということをやっぱり政府側は真剣に考える必要があると思いますね。」

この報道については特に問題は見られなかった。

・東京都が虐待防止条例：結論→特に問題なし

東京都が子どもへの虐待を禁止する条例案を都議会に提出し、保護者による体罰や暴言の禁止を明記する内容で、都道府県では初めてであるとのこと、条例案では保護者は体罰その他の子供の品位を傷つける罰を与えてはならないと規定されていて、しつけを目的にした子供への体罰や暴言の禁止を明記するのは都道府県では初めてである一方で条例違反には罰則がない他大罰と躰の区別については明文化されていないとのこと、東京都は4月1日の施行を目指しているとのことことが報じられた。また罰則がないことについては東京都福祉保健局の園尾まゆみ課長の「それを書いてしまうと逆にそれ以外だったらいいのかという話になってしまう。」というコメントが取り上げられた

このトピックについて当てられた時間は68秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・日米首脳電話会談：結論→特に問題なし

米朝首脳会談を来週に控えて安倍総理は今夜アメリカのトランプ大統領とおおよそ30分電話会談をし拉致問題への協力を求めたこと、会談では核ミサイル問題で一層緊密に連携していくことを確認したほか5月26日のトランプ大統領の訪日で調整を進めることも合意し、米朝会談後には再びトランプ氏から電話で会談内容について

説明を受けるとのこと、ただトランプ大統領は北朝鮮が核実験などを行わない限り完全な非核化の実現を急がない考えも示していて、日本政府内からは、北朝鮮への制裁の例外措置拡大を容認するのではとの見方も出ているとことが伝えられた。

また番組のクロージングではスタジオで雨宮キャスターの「安倍総理がトランプ大統領と電話で首脳会談を行いました。拉致問題で協力を要請しましたね。」というコメントに対して星キャスターが「そうですね。トランプさんを通じて北朝鮮に伝わること事態は結構なんですけど、拉致問題は日本の問題ですからね日本も独自の外交で北朝鮮にかけあうということも必要だと思いますね。」と応えていた。

このトピックについて当てられた時間は 86 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・イスラム国で結婚出産女性の英国籍はく奪：結論→特に問題なし

15 歳でシリアに渡り、過激派組織イスラム国の支配地域で結婚出産した 19 歳のイギリス人女性についてイギリスの内相は国籍の剥奪を決定したとのことについて報じられた。このトピックについて当てられた時間は 16 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・福島第一原発避難訴訟：結論→特に問題なし

東京電力福島第一原発の事故で神奈川県に避難した住民らが国と東京電力を訴えた裁判で横浜地裁は国と東京電力に原告のうち 152 人に対しておおよそ 4 億 2000 万円を支払うよう命じる判決を言い渡したこと、国の責任を認めた判決はこれで 5 度目であることが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 40 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・辺野古署名発起人が来日：結論→特に問題なし

辺野古の埋め立て工事停止を求める署名活動の発起人のロバート・カジワラ氏が来日したこと、ロバート氏の「セレブの呼びかけに多くの人が応えずでに 21 万筆以上の署名が集まっている。」「ホワイトハウスからの回答は残念ながらまだない。日米政府の反応がないので国連の介入を求めている。」「沖縄だけでなく世界全体にとって重要なことです。世界が見守っています。特に若いウチナンチュに選挙に出かけてほしい。あなたの一票はとても重要です。」というコメントが取り上げられていた。このトピックについて当てられた時間は 87 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

- ・辺野古基地移設県民投票

スタジオで駒田キャスターが「今の VTR の最後に出てきた与那城さんに、法的拘束力がないのになぜ県民投票をやるんでしょうか、やる意味ってあるんでしょうかと聞いたところ、そうであっても、そこまでしなければ沖縄の声、そして状況は伝わらないんだと話していましたね。私は思ったんですが、この県民投票を通して政府

NEWS23 週刊報告 詳細版

に対してだけではなくて県外に住む、本土に住む国民に対して、もはや助けを求めているような思いに駆られました。それから複雑な気持ちを話してくれた辺野古に住む許田さんですが、あきらめに似た思いを持ちながらも投票には行くというふうに話していました。そして投票率が県民の意思を示すすべてだと思っていると話していて、40%ぐらいでは総意とはいえないだろうと話していました。」とコメントしていたが、ここで紹介されている「投票率が県民の意思を示すすべてだと思っていると話していて、40%ぐらいでは総意とはいえないだろう」という元田さんの見解を踏まえた議論が県民投票後になされるのかどうかというのは注目に値するポイントであると考えられる。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送：2019年2月21日												
出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙														
検証テーマ：自民・田畑議員が離党、米朝首脳会談														
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道震度6弱 ・コンビニ24時間営業 オーナーと本部が対立 ・自民・田畑議員が離党 ・小4 女児死亡事件 ・米朝首脳会談 ・スポーツ報道 ・北海道地震 ・天気予報 														
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自民・田畑議員が離党→結論：放送法第四条の見地から問題なし。 <p>今回は自民党・田畑議員が知人女性とのトラブルが原因で離党届を提出・受理されたことが伝えられた。今トピックに当てられた報道時間は340秒で、経緯説明・自民党議員・スタジオ解説に焦点が当てられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。</p>														
<p>A pie chart illustrating the distribution of broadcast time for the topic 'Self-Democratic Party Member Leaves Party'. The chart is divided into three segments: '経緯説明' (Context Explanation) at 244 seconds (72%), '自民党議員' (Self-Democratic Party Member) at 68 seconds (20%), and 'スタジオ解説' (Studio Commentary) at 28 seconds (8%).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Time (seconds)</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経緯説明</td> <td>244</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>自民党議員</td> <td>68</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>スタジオ解説</td> <td>28</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>			Category	Time (seconds)	Percentage	経緯説明	244	72%	自民党議員	68	20%	スタジオ解説	28	8%
Category	Time (seconds)	Percentage												
経緯説明	244	72%												
自民党議員	68	20%												
スタジオ解説	28	8%												

報道の内容は以下の通り。

皆川「女性トラブルで自民党に離党届を提出した田畑毅衆院議員について、党紀委員会は離党届を受理するという結論を出しました。」

二階俊博幹事長「いろいろみなさんに色々な面でご迷惑をかける点。これは大変残念であります。責任者として皆さんに本当に申し訳なく思っております。」

ナレーター「今日、自らの派閥総会でこう陳謝した自民党の二階幹事長。その迷惑をかけるという人物が。自民党・二階派の田畑毅衆院議員。知人女性とのトラブルを起こし、今日正式に自民党に離党届を提出しました。関係者によりますと田畑議員は去年のクリスマスイブに二人で飲酒。女性が眠ったところを乱暴し、女性は警察に被疑届を出したといひます。被害を訴える女性は JNN の取材に対し『許せない。お金の問題ではなく、示談に応じるつもりはない。議員を辞めて欲しい。』自民党は今日午後、党紀委員会を開催。離党届の扱いを含め、田畑議員への処分を話し合いました。その田畑議員。どんな人物かという。」

田畑議員「(支援者が) 何としても勝たしてやらなあかんということで、応援してくださりましたので。」

ナレーター「日本銀行出身で現在 46 歳。前回の衆院選では愛知 2 区から出馬し、選挙区では敗れたものの比例で復活当選しました。初当選は 7 年前の衆院選。当時、同じく初当選を果たしたのが。」

豊田真由子元議員「どうしてこんなこと言ってしまったのだろうと。」

ナレーター「秘書に対する暴言と暴行が発覚した豊田元議員や。」

宮崎謙介元議員「人間としての欲が勝ってしまった。」

ナレーター「育児休暇の取得を掲げながら、妻の出産直前に不倫。発覚後に辞職した宮崎謙介議員ら『魔の 2 回生』と呼ばれた人たちです。その後、一昨年選挙を経て田畑議員は『魔の 3 回生』に。自民党内からは。」

自民党議員「魔の 3 回生は選挙で苦労していないから甘いんだよ。風に乗って勝っただけだ。」

ナレーター「一方、二階派の総会ではこんな発言も。」

伊吹文明元衆議(自民党)「いろんな事があるけれども、問題にならないようにやらなければだめだよな。同じことをやるにしても。」

ナレーター「伊吹氏の発言は田畑議員を指したものではないといひますが、波紋は広がっています。田畑議員の地元では。」

市民①「ちゃんとけじめつけて対応してほしいなという。」

市民②「辞めるべきじゃないですか。」

ナレーター「自民党愛知県連の会長は今日午後、党本部を訪問。田畑議員の処分を決める党紀委員会の開催を前にこう訴えました。『議員辞職することを強く要求いたします。』そして党紀委員会が下した処分は。」

山東昭子党紀委員長「離党を 2 月 21 日付けで了承する。」

ナレーター「田畑議員の離党届を受理。この処分に田畑議員が所属する二階派のトップ二階幹事長はこう話しています。」

二階幹事長「非常に穏当な適切な結果を出していただいております。」

ナレーター「一方、党紀委員会では議員辞職について。」

山東「党紀委員会をご承知のように辞職を促す場所ではない。政治家の出処進退というのはあくまでも自らが判断するのが基本だと私は思っている。」

NEWS23 週刊報告 詳細版

雨宮「田畑議員は離党届を受理されましたが、議員辞職には至っていないんですよね。」

星「そうですね。事実関係を調べた二階派のベテラン議員はこれは議員辞職に値すると言っていました。魔の3回生の不祥事なんですけれども、本来ならば政策づくりとか選挙の中堅にならなければいけない層なんですけれども、こういう層がこういう状況では党の将来も危ういとなっちゃいますね。」

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

・米朝首脳会談→結論：放送法第四条の見地から問題なし。

今回は米朝首脳会談に先立ち、ベトナム・ハノイで実務者協議が行われたことが伝えられた。今トピックに当てられた報道時間は64秒で、経緯説明が主な内容であった。

今回は放送法第四条の見地から問題は見られなかった。

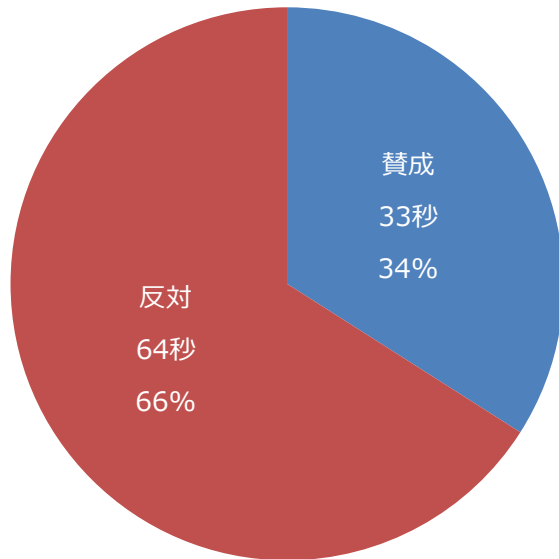
最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし。

検証者所感

特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送日： 2019年2月22日
出演者： 星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙		
検証テーマ： 統計問題、辺野古埋め立ての県民投票迫る、松江市で竹島の日の記念式典、皇太子さまが 59歳の誕生日、安倍総理が皇太子さまのもとへ情勢報告		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はやぶさ2着陸成功 ・北海道地震で一部断水続く ・統計問題 ・辺野古埋め立ての県民投票迫る ・住宅に500人分の人骨 ・松江市で竹島の日の記念式典 ・スポーツ情報 ・23Today <p>はやぶさ2着陸成功 北海道地震で一部断水続く 皇太子さまが59歳の誕生日 安倍総理が皇太子さまのもとへ情勢報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計問題→結論：放送法第四条第一項二号に照らし合わせると不十分 <p>勤労統計の問題について、中江元哉総理秘書官から毎月勤労統計の調査方法について直接問題意識を伝えられた厚労省の姉崎猛元統計情報部長を中心に展開された報道。このトピックスは388秒報じられた。同報道において姉崎氏に肯定的な意見を賛成。否定的な意見を反対として集計したところ以下のような比率及び時間となった。</p>		



反対意見としては立憲民主党会派の小川淳也衆院議員から「その日の午後 10 時半に結論が書き換わっているわけです。普通に考えれば中江さんとの面談を経て結論を書き変えなければならないと判断したあなたがこの結論を書き換えさせたというのがどう考えても自然な経過であります。」という 9 月 14 日に姉崎氏が中江総理秘書官と面会したことが不正な調査方法変更に影響したのではないかとする質問が取り上げられていた。

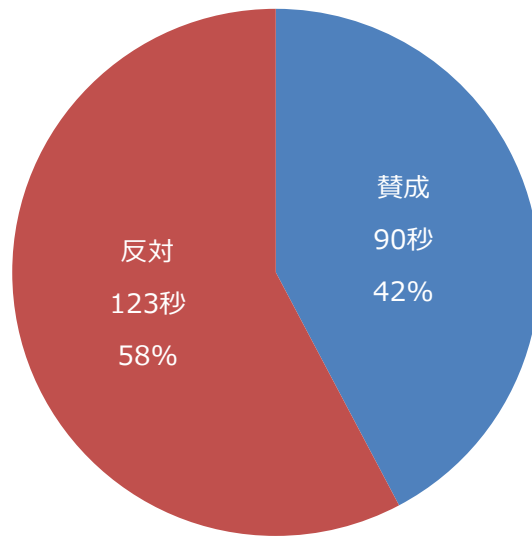
賛成意見としては姉崎氏本人の「総入れ替え方式も部分入れ替え方式も一応両方とも検討するというような整理にしようというふうに私が決めて。」と中江氏の関与を否定する発言が伝えられていた。

以上の意見を受けてスタジオではコメンテーターの星浩氏が「それでも厚労省は影響はなかったと。官邸からの、否定しているんですね。メールでは、中江秘書官からいろいろ注文がついているという形跡がうかがえるんですね。これはある意味で物証ですよね。一方で厚労省は圧力がなかったというのは、主観的な後付けの理屈かもしれないので、この辺はさらに追及されるべきだと思いますがそもそもアベノミクスを推進している官邸側は評価を受ける側なんですよ。その受ける側が統計のルールを見直すべきだと注文をつけること自体、問題があると思うんですよ。週明けの月曜日、集中審議がありますので 1 つヤマ場になると思いますね。」とコメントしていた。

賛否の比率的に反対に偏っていることに加えてスタジオでの意見も姉崎氏の発言に疑問を呈する内容であった。以上のことから放送法第四条第一項二号の「政治的に公平であること。」に照らし合わせると不十分であると考える。

・辺野古埋め立ての県民投票迫る→結論：放送法第四条第一項二号抵触する恐れ

沖縄県で辺野古埋め立ての賛否を問う県民投票を控え、辺野古が唯一の選択肢とする政府の意見が正しいのか疑問をなげかける形での報道。同報道において辺野古の移転に肯定的な意見を賛成、否定的な意見を反対として集計したところ以下のような時間及び比率となった。



辺野古移転に肯定的な意見としては元防衛相の中谷元氏の「他の地域を探す作業を始めた途端にますます混迷と混乱によって結局時間だけがかかってしまって、普天間基地が残ってしまうという現実しかない。」という意見や米国のハガディ駐日大使からの「辺野古は日米両政府の間で何年も前に選んだ場所です。すでに資金が投下され工事も進んでいます。日米の間で他の選択肢は議論されていません。」との発言が紹介された。

反対意見としては元米国陸軍大佐ウィルカーソン氏の「沖縄の海兵隊は中国にも他の国にも脅威ではない。」「国との戦争は空と海での戦いになり地上部隊の大きなかわりはないでしょう。」との意見や元内閣官房副長官補の柳澤協二氏から「そもそも最大の移動手段である船がもう佐世保にいるわけですから、いつでも同じ場所にいなければいけないという論理はもともと成り立たないんだろうと思います。」との意見が紹介された。

以上を受けてスタジオでは星浩氏が「グアムとかハワイですとアメリカの国内の基地ですから日本からのお金は出ませんが、沖縄にあれば日本から思いやり予算というのが出ますよね。アメリカにとってもそっちの方が都合がいいというのがありますよね。それから、海兵隊にとってみると、沖縄というのは非常に住みやすいところで移りたくないんですね。海兵隊というのは実はアメリカの国内でも非常に政治的な影響力が強いということもあって、なかなか意向を無視できない事情がありますよね。しかし、逆にいうと、政治的に決めているんですから政治的に見直すことも可能だと言えらると思いますね。」とコメントしていた。

賛否の比率は一程度拮抗しているものの専門家として紹介された意見のほとんどは否定的な意見で占められていた。また同報道では悪質な印象操作の疑いがあったため上記の結論とし詳細は下項目にて記すこととする。

・松江市で竹島の日の記念式典→結論：放送法第四条の見地からは問題なし

島根県の松江市で竹島の日の記念式典が行われたことについての報道。会場近くでは韓国人活動家から怒号が飛ぶ様子が報じられていた。また県からは政府に対して閣僚の出席を求めたものの今回も見送られたことも伝えられた。このトピックスは 74 秒報じられ特に問題点は見当たらなかった。

・皇太子さまが 59 歳の誕生日→結論：放送法第四条の見地からは問題なし

2月23日に皇太子さまが59歳の誕生日を迎えられたことについての報道。皇太子さまからの「国民に常に寄り添い、「人々と共に喜び、あるいは共に悲しみながら象徴としての務めを果たしてまいりたいと思います。」との御言葉などが伝えられていた。同報道は48秒報じられ特に問題点は見当たらなかった。

・安倍総理が皇太子さまのもとへ情勢報告→結論：放送法第四条の見地からは問題なし

東宮御所を訪れた安倍総理が皇太子さまと面会したことについての報道。5月の皇位継承を見据え、外交日程など内外の諸情勢について報告を行ったと伝えられていた。このトピックスは21秒で特に問題点は見当たらなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックスの報道内容要旨

・辺野古埋め立ての県民投票迫る→結論：悪質な印象操作の疑い

同報道ではキャスターの雨宮氏とコメンテーターの星氏との間で以下のようなやり取りがあった。

雨宮氏 「軍事的には辺野古が唯一の必ずしも選択肢ではないんだと専門家の方も言っていますよね。」

星氏 「海兵隊が沖縄にいたくちやいけないという実体は、軍事的にはないんですね。実際、森本元防衛大臣も今回の辺野古というのは、政治的な選択だと明言してますよね。」

雨宮氏の投げかけも番組での報道の論点も「辺野古」が唯一の選択肢であるのかという内容であったにもかかわらず星氏は「沖縄」にすりかえてコメントをしている。この他にも「辺野古」と「沖縄」を混同して伝えるような印象を与えるような内容が随所に見られた。沖縄の基地負担についてと辺野古の埋め立ての2点は関係性はあるものの混同するのは視聴者に理解を促すうえで適当であるとは言い難い。

また上項目でも記した通り同報道で取り上げられた専門家の意見はいずれも沖縄の海兵隊の配置について否定的な意見を述べていた。一方で肯定的な意見を述べていたのは中谷元防衛相やハガディ駐日大使など、いずれも政治に携わる人々であった。このことも辺野古の埋め立てには政治的意味合いが強いという印象を視聴者に与えるようなキャスティングであったと推察される。以上のことを踏まえると同報道は悪質な印象操作の疑いがあると結論する。

検証者所感

特になし